



2020年 皆さんの今年の漢字は何でしたか

学校長 平田 高之

年末の風物詩、清水寺で披露される「今年の漢字」は「密」でした。さらに、「2020新語・流行語大賞」でも、候補30語のうち、新型コロナウイルス感染症に関連したのは約半数の13語で、「年間大賞」も「3密」となり、今年を象徴するものとなりましたが、皆さんにとって今年の漢字は何だったのでしょうか。

生徒の皆さんにもいろいろ考えてもらったようで、3年生の「今年の漢字」を見せてもらうと、ほとんど同じ漢字を書いている生徒がなく、それぞれの個性や思いが出ていて、とてもいいなと思いましたので、一部ですが紹介します。

「休」「卒」「起」「尊」「驚」「自」「笑」「最」「禍」「塾」「沈」「怜」「努」「退」「学」「怠」「支」「友」「変」「無」「神」「闇」「才」「鬼」「菌」「走」「進」「仲」「異」「和」「刃」「陽」「終」「思」「短」「成」「頑」「三」「描」「虎」「勝」「負」「坂」「虹」「協」「君」「濃」「挑」「太」「己」「生」「選」「燦」「瘦」等

私自身はどうだったか、なかなかこの1年を振り返る気持ちの余裕はなかったのですが、「学校だより第89号」を書きながら考えた時に、やはり新型コロナウイルス感染症対応に追われた年になりましたので「応」かなと思いました。

感染初期の1月の頃は、まず、卒業式をどうするのか悩みました。さらに、新年度の入学式、校外学習、修学旅行をどうするのか。4月に入って緊急事態宣言が出されてからは、臨時休業中の生徒たちの学力保障をどうするのか、学校再開後に生徒の安全・健康確保をいかに図りながら教育活動を進めていくのか、2か月の臨時休業で失われた授業時数をどうカバーするのか、部活動や総体はどうなるのか。そして、2学期の体育大会、文化発表会、トライやる・ウィークをどのような形で実施するのか等、いかに生徒と保護者の皆さんの思いやニーズに「応」え、何ができるのかを考え続けた1年間となりました。特に、中学校生活最後の3年生にとって、この制限の中で、少しでも中学校生活の良い思い出が残せるよう、新型コロナウイルス感染症と授業時数の確保の両立が求められる中で、時には、厳しい、苦しい判断もなくてはなりません。しかし、その中で一番の救いは、3年生を中心とした生徒たちが、私たちの想定以上に「応」えてくれ頑張る姿でした。本当に感謝しています。

しかしながら、何事も例年通りに進めることはできませんでしたから、いかに発想を転換し、一度決めたことでも、感染状況が刻々と変化する中で臨機応変に進めていくことを心がけましたが、生徒たちの思いや保護者の皆様のお声にどれだけ応えることができたか分かりません。しかしながら、各行事後の生徒たちの感想や記録の中に嬉しい言葉を見つけることができ、実施して良かったなど思わせてもらうことが多くありました。

保護者の皆さまにおかれましても、大変な1年間だったのではないのでしょうか。私たち公務員は非常に恵まれています、業種にとっては非常に厳しい状況が続いています。せめて、本校の教育に対して安心してお任せ頂けるよう、引き続き1月から全集中で取り組み、生徒・保護者の皆様の付託に「応」えていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします@